



和歌山県立田辺工業高校 保健室 2022年8月第2号 (Vol.10)

夏休み期間中は健康に、安全に、楽しく過ごせましたか？

毎日のように熱中症警戒アラートが発令されたり、急な雷雨、局地的な大雨など、気候も大きなうねりを見せているように思います。

全国的に見ても、東北や北陸地方で長引く豪雨による災害、各地で散発する噴火や地震、新型コロナウイルス感染症に至っては収まるどころか、陽性確認者数はたいへん多く、和歌山県内でも「最多」というニュースばかり…。

私たちが今どのような考えでどのように行動するか、地球環境に直結する問題として正面から取り組んでいかなければならないように思います。

2学期、3年生にとっては進路決定という人生の節目、学校行事も多くあります。備えられることは十分な備えをし、一日一日を大切に、健康に、安全に過ごしてほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症のこと

さまざまな分野からさまざまな見解が公開され、対応も次々と変更し、終わりの見えない戦いの様相を呈しています。

まだまだ「未知のもの」ではありますが、感染予防のための行動はずっと同じです。正しい知識を持ち、人混みを避ける、マスクの正しい着用、密閉、密着を避けること、手洗いの徹底、免疫力を落とさないような生活を心がけることなどこれまで行ってきた感染予防対策を継続しましょう。

また、毎朝の健康チェックは必ず行い、「いつもと違う」と感じるがあれば無理をせず登校を控え、医療機関に相談するなど適切な行動をとってください。濃厚接触者の特定が行われない場合もありますので、行動歴や接触歴、体調など自分で判断を行うことも考えられます。

引き続き、感染した、濃厚接触者となった、検査を受ける、受けた、などは速やかに担任に連絡をお願いします。

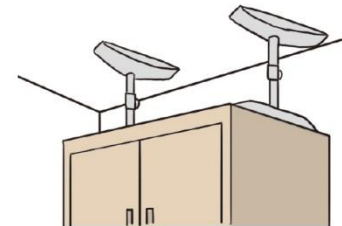
濃厚接触者でも PCR 検査なし、公的な健康観察の連絡なしとなっていますが、健康観察を継続し、最初に告げられた自宅待機をお願いします。

防災とセットで取り組む 減災

9月1日は「防災の日」。身の回りで起こりうる災害を可能な限り未然に防ぐため、さまざまな形で啓発が行われます。一方、災害による被害をある程度、あらかじめ想定した上で低減させていこうとする考え方として「減災」があります。



とくに地震や竜巻、洪水などの自然災害は、いつ・どこで起こるのか、ある程度の予測はできてもはっきりとはわからず、予防は難しいもの。そこで、こうした特性を踏まえてさまざまな研究や調査、分析などをもとに対策を立て、被害を最小限にとどめることを目的とした取り組みが必要になるのです。



減災は1995年の阪神・淡路大震災の後、被災者の体験から生まれた概念であるといわれています。その後も、2011年の東日本大震災など、私たちは数々の災害を経験してきました。『起こさない』ための努力、そして、起きてしまっても『なるべく被害を少なくする』ための努力…災害対策として、この2つをセットで考え、取り組んでいくことが大切なのです。

お願い

○スポーツ振興センター給付金請求について

授業中、クラブ活動中、登下校中など、学校管理下での負傷等については、一定の条件を満たせば日本スポーツ振興センターに申請することによって災害共済給付金を受けることができます。該当すると思われる人は担任やクラブ顧問、保健室まで申し出てください。

また、既に書類を受け取っている人は速やかに提出してください。

継続して診察・治療を受けている人はひと月ごとに書類提出が必要となりますので、保健室まで取りに来てください。

○受診結果等について

1学期に実施した健康診断の結果を受けて受診した人や、心疾患等で定期受診してその結果票をもらっている人は速やかに保健室に提出してください。

未受診の場合は速やかに受診することをお勧めします。